

(第1面)

産業廃棄物処理計画書

令和8年 6月 19日

岩手県知事
達増 拓也 殿

提出者

住 所 岩手県大船渡市盛町字二本杵5番

氏 名 株式会社 アマタケ

代表取締役 甘竹 秀企

(法人にあっては、名称及び代表者の氏名)

電話番号 0192-26-5205

岩手県循環型地域社会の形成に関する条例第9条の2第1項の規定により、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。

事業場の名称

株式会社アマタケ 荒川農場

事業場の所在地

岩手県下閉伊郡山田町荒川第6地割22-1

計画期間

令和8年4月1日～令和9年3月31日

当該事業場において現に行っている事業に関する事項

①事業の種類

012 畜産農業

②事業の規模

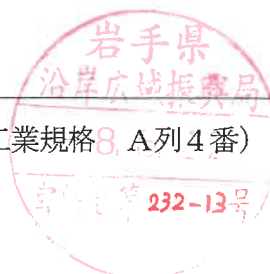
令和8年度 生鳥出荷羽数 379万羽 (アマタケ全農場)
(令和7年度比92.4%)

③従業員数

5名 (令和8年4月)

④産業廃棄物の一連
の処理の工程動物の糞尿→農場のボイラー燃料として利用→焼却灰
◎焼却灰は肥料として販売。

(日本工業規格8 A列4番)



(第2面)

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図)



産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

① 現状	【前年度（令和7年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	動物の糞	
	排出量	726.0 t	
	(これまでに実施した取組) 飼育管理の徹底による水分量の減少。		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	動物の糞尿	
	排出量	670.8 t	
	(今後実施する予定の取組) 飼育管理をさらに徹底し、水分量を増やさない。		

産業廃棄物の分別に関する事項

①現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) —
②計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) —

(第3面)

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項

① 現状	【前年度（令和7年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	動物の糞尿	
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	60.8 t	
	(これまでに実施した取組) ボイラーの燃料として利用し、燃焼熱は鶏舎の暖房に利用する。焼却灰は肥料として販売している。		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	動物の糞尿	
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	56.2 t	
	(今後実施する予定の取組) これまでの取組みを継続する予定。		

自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項

① 現状	【前年度（令和7年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	動物の糞尿	
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	0 t	
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	665.2 t	
	(これまでに実施した取組) ボイラーの燃料として利用し、燃焼熱は鶏舎の暖房に利用する。焼却灰は肥料として販売している。		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	動物の糞尿	
	自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	0 t	
	自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	614.6 t	
	(今後実施する予定の取組) これまでの取組みを継続する予定。		

(第4面)

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項

① 現状	【前年度（令和7年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	動物の糞尿	
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	0 t	
	(これまでに実施した取組) —		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	動物の糞尿	
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	0 t	
	(今後実施する予定の取組) —		

産業廃棄物の処理の委託に関する事項

① 現状	【前年度（令和7年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	動物の糞尿	
	全処理委託量	0 t	
	優良認定処理業者への処理委託量	0 t	
	再生利用業者への処理委託量	0 t	
	認定熱回収業者への処理委託量	0 t	
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	0 t	
	(これまでに実施した取組) —		

②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	動物の糞尿	
	全 処 理 委 託 量	0 t	
	優良認定処理業者への 処 理 委 託 量	0 t	
	再生利用業者への 処 理 委 託 量	0 t	
	認定熱回収業者への 処 理 委 託 量	0 t	
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処 理 委 託 量	0 t	
	(今後実施する予定の取組) —		
	※事務処理欄		